

緊急集会

「安楽死・尊厳死の問題点と 介助者確保について」

平成30年**11月28日(水)**

11:00～13:30 受付開始**10:30**

参加
無料

一部の報道では、8月末から与党の一部で尊厳死法制化の案を練り直し、早ければ来年の通常国会への法案提出を目指す動きがあるとされています。また、従来の案はリビングウィル(事前指示書)の法制化を目指す内容でしたが、今回はAdvance Care Planning(ACP)を中心に議論されているとも報じられています。

ACPとは、患者、家族、多職種による継続的な対話を通じた合意形成のことです。さまざまな意見を聞きながら、患者が意思決定を行い、しかも患者の意思の変化にも対応できるということで、ACPは肯定的に捉えられることが多いようです。

たとえば、ALS患者が人工呼吸器を装着するか否かも、意思決定プロセスが重視されてきました。しかし、介護保障に関する情報が十分に提供されないまま、対話が積み上げられていくことは、非常に危険です。療養体制が整えられないがために、気管切開と呼吸器装着という患者本人の希望は「不可能」ということで合意が形成されてしまう、みんなで積み上げた合意を患者本人が覆すことが困難である、など多くの問題が指摘されています。

これまで尊厳死法制化の波は何度か押し寄せ、そのたびに私たちは声を挙げてきました。しかし、検討の内容がリビングウィルからACPへと一歩進んだことで、一定の評価はできるものの、患者の自己決定権がどう扱われるのかがはっきりせず、危機感を抱いています。

そこで、今回は、有識者をお招きしてご講演いただくとともに、会場の参加者とも意見を交換しながら、この問題について考えていきたいと思えます。

場所

憲政記念館1階会議室(東京都千代田区永田町1-1-1)

内容

講演 安藤泰至氏(鳥取大学医学部保健学科准教授)

講演 竹田主子氏(医師、ALS患者)

問題提起 ACPによる治療停止と呼吸器外し

会場からの声



■お申し込み■

スマートフォンの場合は、
右記のQRコードからGoogleフォームに
アクセスしてお申し込みください。



FAXの場合は、

①お名前(必須)、②所属団体、③お電話番号、④メールアドレス、⑤ご参加にあたって必要な配慮(例:車いす/ストレッチャーを使用、介助者が同行、コンセントが必要、要約筆記の近くの席、など)、⑥その他のご質問など、をご記入のうえ、FAX番号042-850-9142にご送付ください。

■情報保障■

要約筆記をご用意しています。
それ以外の情報保障については、お問い合わせ先
にお申し出ください。

■お問い合わせ■

特定非営利活動法人日本せきずい基金(担当:池田)
090-4178-4723 / acting_is_fun@hotmail.com

F A X 番号：042-850-9142

F A X で参加申し込みをされる場合は、下表にご記入ください

お名前（必須）	
所属団体	
お電話番号	
メールアドレス	
配慮事項	<input type="checkbox"/> 車いす/ストレッチャーを使用 <input type="checkbox"/> 介助者が同行 <input type="checkbox"/> コンセントが必要 <input type="checkbox"/> 要約筆記の近くの席 <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）
質問事項など	

講演者プロフィール

安藤 泰至（あんどう・やすのり）

1961年生まれ

1983年 京都大学文学部哲学科卒業

1985年 京都大学大学院文学研究科（宗教学専攻）修士課程修了

1987年 京都大学大学院文学研究科（宗教学専攻）博士後期課程2年次単位取得
米子工業高等専門学校講師、助教授を経て

1996年 鳥取大学医学部医学科講師（医療システム学講座）

2000年 鳥取大学医学部保健学科助教授（基礎看護学講座）
（2007年に准教授に名称変更、～現在）

2006年 米国ヴァージニア大学実践倫理研究所フェロー、宗教学科客員研究員（～2007年）

2014年 日本学術会議・連携会員（～現在）

専門は生命倫理・死生学・宗教学

著書（編著）に『「いのちの思想」を掘り起こす』（岩波書店）、『シリーズ生命倫理学4 終末期医療』（丸善出版、高橋都との共編）、著書（共著）に『宗教と生命』（角川書店）、『〈いのち〉はいかに語りうるか（学術会議叢書24）』（日本学術協力財団）、訳書に『死と来世の系譜』（時事通信社）、『生命倫理学と障害学の対話』（生活書院、児玉真美との共訳）など。

日本医学哲学・倫理学会奨励賞（2002年）、鳥取大学医学部教育功績賞（2012年）、鳥取大学研究業績表彰（2013年）を受賞。

竹田 主子（たけだ・きみこ）

1996年 信州大学医学部卒業

内科医師

東京大学医学部附属病院、東京都老人医療センター（現・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター）、国家公務員共済組合連合会三宿病院、横浜総合病院などに勤務

1999年 アメリカテキサス州ヒューストンBaylor医科大学留学臨床研究員（～2003年）

2012年 ALS発症

2018年 東京メディカルラボ代表（～現在）